



六中だより

～自主・勤勉・共生～

12月号 No.8

平成30年12月10日発行

港区立六本木中学校

校長 石原 嘉人

指導者の役割

校長 石原 嘉人

六本木中学校のシンボルツリーである大銀杏も色づき、たくさんの葉を落とす季節になりました。この季節になると整美委員会を中心にボランティアの生徒たちが落ち葉掃きをしてくれています。六本木中学校のホームページのトップページには大銀杏が落とした黄金色の銀杏の葉の写真が使われていますので、よろしければご覧ください。

さて、私は今、「走れ！T校バスケット部」という本を読んでいます。映画化もされていますし、本校の図書室にも置かれているので、映画を見た人や本を読んだ人も多いと思います。この本の中に悪役の指導者が描かれているのですが、今月はこの指導者について書かせていただきます。

その指導者は名門私立高校のバスケットボール部のコーチです。試合で形勢が悪くなると怒鳴り散らし、選手を威圧し、できないことを責める。試合に負けてしまうと「俺の顔に泥を塗った」などという始末。そのため、選手は楽しいはずのバスケットも楽しめず、やる気を失ってしまいます。よくある典型的な悪い指導者ですが、指導者に能力があり、熱心に指導している人こそ陥りやすい現象です。でも、選手にも能力があるのでそれなりの成績を収めることができるのでたちが悪いのです。この指導法が負の連鎖につながり、一向に改善されていかないことは周知の事実です。当たり前前のことですが、指導者の役割は「指導すること」であり、その目的は「できるようにする」ことです。選手ができないのは、指導者の指導が行き届かなかったからであるのに、自分のことは棚に上げて選手のせいにしてしまいます。いい結果になるはずありません。

負けたくて試合をやっている選手などいるわけありません。指導方法が悪いからできないのです。選手たちは勝ちたくて仕方がないのに、指導法が適切ではないために結果が出ないのです。

何を隠そう、私もこの考え方にたどり着くまでに相当な時間を費やしました。どのようにすれば選手ができるようになるのか考え、選手に合わせ、指導方法を常に改善・修正していかなければならないのです。これは、スポーツの世界だけの話ではありません。勉強においても同じです。生徒の「できるようにになりたい」という欲求を満たすことのできる教育者にならなければ…ということ思い出させてくれた一節でした。指導者として、保護者として生徒たちをやる気にさせるアドバイスを送りたいものです。3年生は、進路決定の真っ只中に立たされています。彼ら彼女らの進路希望を実現させるために教師として、保護者として適切にサポートしていきたいですね。

「走れ！T校バスケット部」の主人公の陽一は指導者への道を歩みそうな展開です。どんな指導者になっていくのか楽しみにして読み進めたいと思います。

本校の男子バスケットボール部も東京都の大会でベスト8まで勝ち進みました。素晴らしい活躍です。様々なことを乗り越えて、大好きなスポーツに没頭する姿には微笑ましさだけでなく逞しさを感じます。「一生懸命取り組んだ経験のない人は、どんなことに対しても一生懸命取り組むことはできない」というのが私の持論です。部活動や学校生活を通して多くの体験をし、一つ一つのことに全力で取り組み、たくましく成長してくれることを願っています。



冷水器が寄贈されました



11月10日(土)、20周年記念式典の行われた日、六本木中学校の同窓会総会が開かれました。同窓会からは、「20周年の記念に何か寄贈したい」という申し入れを受けており、学校からは「生徒たちからは体育館に冷水器が欲しいという要望が上がっている」ことを伝えたところ、同日行われた総会において冷水器を寄贈することが承認され、午後の祝う会において同窓会長の早川義亮様から校長へ目録が渡されました。

工事は、12月7日に行われ、体育館のホールに待望の冷水器が設置されました。体育の授業や部活動で運動した後に冷たい水が飲めるというのはありがたいことです。ぜひ、丁寧に扱ってくださいね。

生徒会始動！！

生徒会のスローガンは「一期一会 ～Now or Never～」となりました。

一期一会・・・茶道に由来することわざです。茶会に臨む際には、その機会は二度と繰り返されることのない、一生に一度の出会いであるということを心得て、亭主・客ともに互いに誠意を尽くす心構えを意味します。

Now or Never・・・和訳は「今しかない」。学校生活も同じ日が繰り返されることはありません。一生に一度の今を全力かつ誠意を尽くして生活できる学校にしたいと思い、このスローガンを考えました。これから行われる百人一首大会などの行事はもちろんのこと、普段の学校生活もこの気持ちを忘れずに行動していきましょう。 【12/4「生徒会だより」より】

一期一会

～ Now or Never ～

六本木中学校生徒会

命の大切さを学ぶ教室

11月16日(金)、「命の大切さを学ぶ教室」を行いました。

今年度は、平成16年5月に交通事故で当時4歳だったお子様を失ったご遺族の中土美砂様にお話を伺いました。

中土様からは、「交通事故ではなく交通犯罪である」ことや「被害者はわかってくれようとしてくれる人がいることで救われる」、「被害者をかわいそうな人で終わらせないでほしい。自分だったらどうするか考えてほしい」という話がありました。

そして最後に、生徒たちに「3つのお願い」を次のように話してくださいました。

○大切な人をたくさん作ってほしい。

その大切な人の中に自分自身も入れてほしい。皆さんは誰かにとって大切な人なのだから・・・

○想像力をはぐくんでほしい。

そのために本をたくさん読んで、いろいろな人と話して想像力を養ってほしい。これをしてらどうなるのかということを考えてほしい。

○何かあったとき、決して一人にならないでほしい。

「助けて」ということは恥ずかしいことではない。信頼できる大人に相談してほしい。今日、この場にいられるということはいろいろな人にお世話になっているからです。今日を精いっぱい生きて、元気にたいていまと言してほしい。

とても大切なことです。この3つのお願いを心に留めて生活してください。

講師の先生からは、「こんなに熱心に聞いてくださる学校はない。しっかり話を聞いてくれて、ありがとうございます。」とお褒めの言葉をいただきました。

自分を含め、すべての人の命を大切にできる人になってください。

